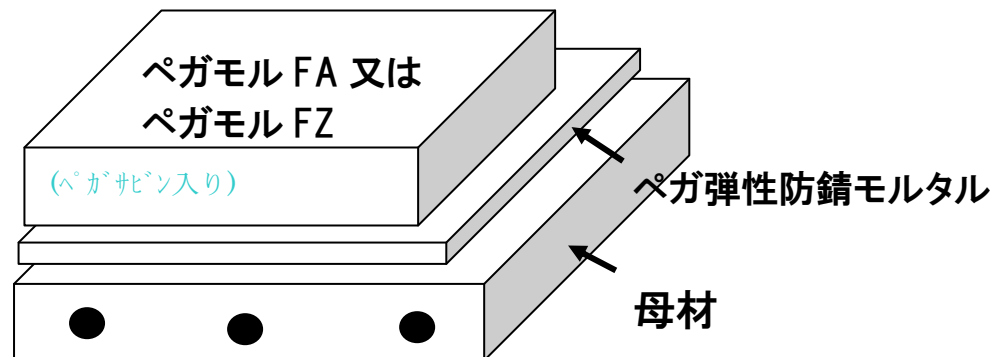


セルガード工法の施工法

ペガモル FA またはペガモル FZ の付着強度は大きく、母材に直接施工することが可能ですが、ペガ弾性防錆モルタルを使用していただければ、より長期に渡り付着強度を維持することができます。また同時に「ペガ弾性防錆モルタル」は鉄筋の防錆作用もあります。



- 1) モルタルを練るときにペガサビンを200cc/1袋(20kg)を練水に混入します。
- 2) ペガモル FA はリターゲ-を練水に加えます。

(ペガ弾性モルタルを使用した場合の施工法)

マクロセル腐食の防止、
塩分による鉄筋の腐食
を防ぎ、剥離を防止する工法

セルガード工法

荷姿(出荷パッケージ)

ペガモルFA(吹付け、左官兼用)(20kg 詰)

浸透性防錆剤「ペガサビン」(16L)



[開発協力会社]



株式会社 ジェイペック **POWER Group**
環境・資源リサイクル事業部
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-1-6(クアトロ室町ビル)
TEL:03-5203-0367 FAX:03-5203-0384

[製造 販売元]



ペガサス株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-5-5 大同ビル 407
TEL:03-5207-7733 FAX:03-5207-7734

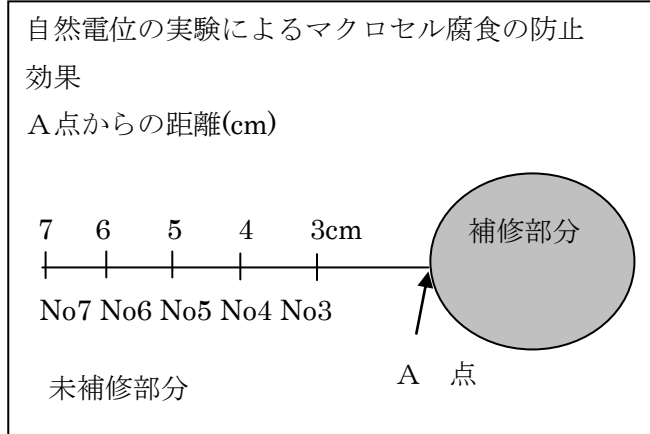
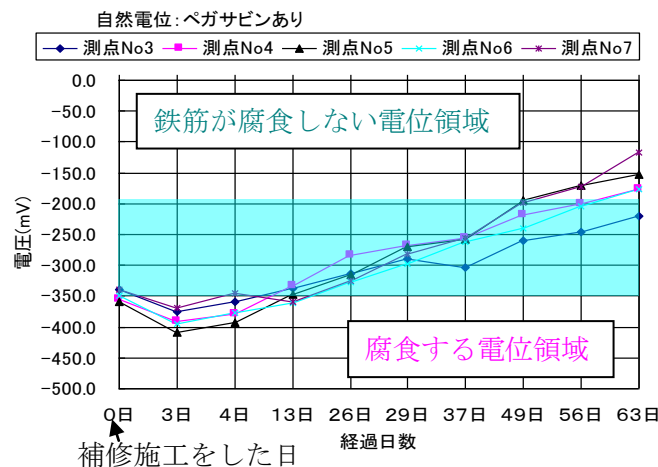
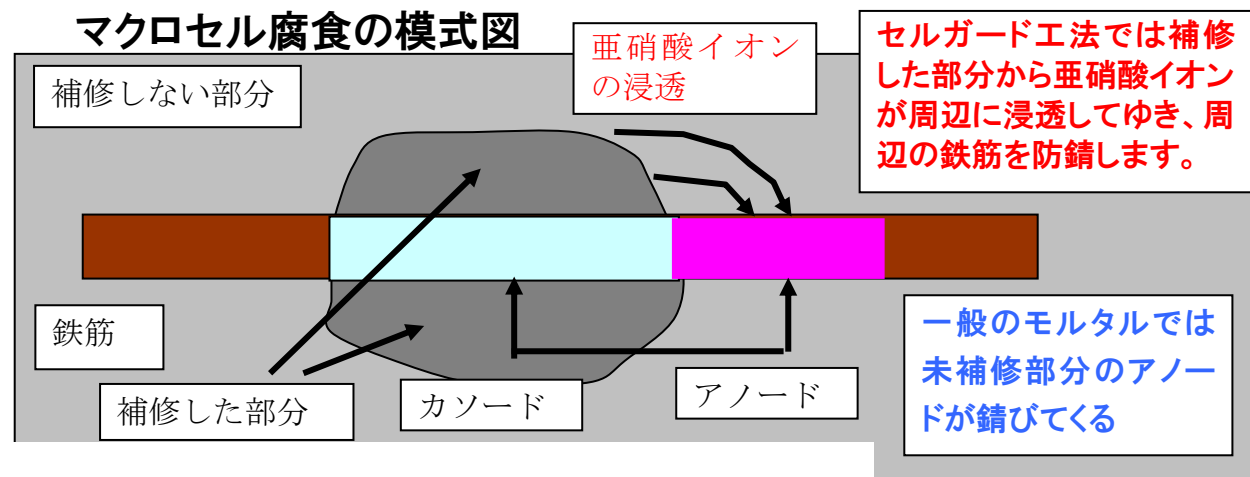


セルガード工法の特長

- 1 ペガサビン(浸透性防錆剤)をペガモル FA,FZ に混入して、亜硝酸イオンがモルタル中に含まれており、高められた亜硝酸の浸透性能によって、補修部分と同時に未補修部分に亜硝酸イオンが拡散して**マクロセル腐食を防止**します。
- 2 FA(フライッシュ)をモルタルに混入して遮塩性能を高めており、塩分や水分の浸入を少なくしており、**塩害を軽減**できます。
- 3 下地材として弾性変形が大きいペースト状のモルタル(商品名:ペガ弾性防錆モルタル)を使用しており、母材と補修材の乾燥収縮率や温度変化による膨張係数の相違によって生ずる応力を吸収します。これにより「**剥離**」を**最小限**に留めます。

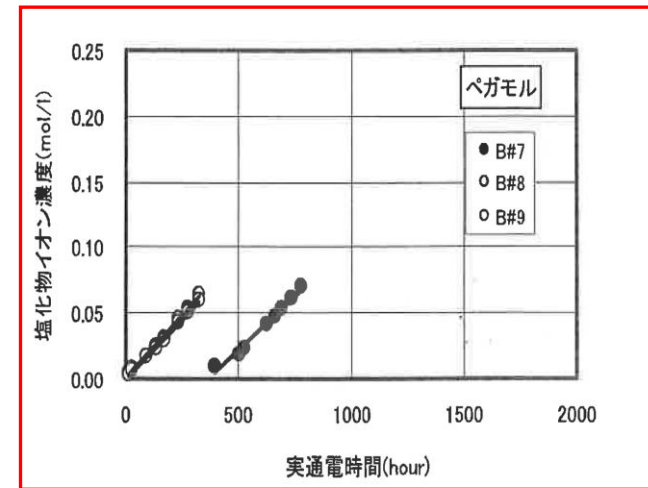
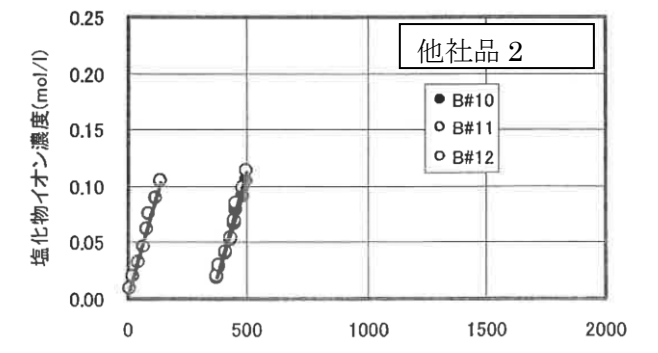
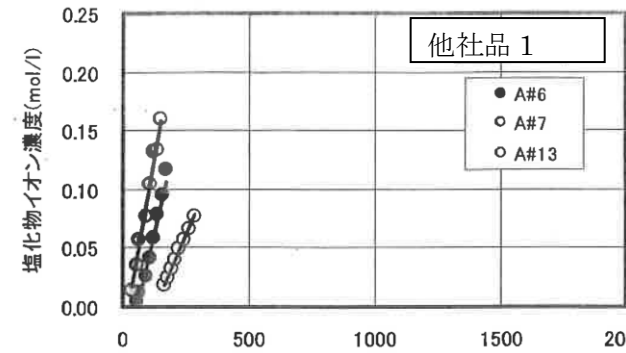
マクロセル腐食を防止します

別売りの浸透性防錆剤「ペガサビン」を練り水の中に混入することにより、防錆モルタルとして使用します。ペガサビンの高浸透性能により亜硝酸イオンが未補修部分に拡散してゆきます。



およそ56日(約2ヶ月)で補修部分から6cm離れた位置まで、防錆作用を発揮しています。

高い遮塩性能を持っています



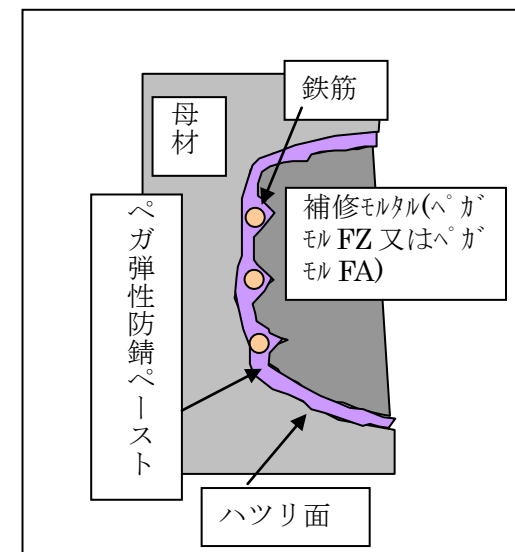
フライッシュの混和により(ペガモルFA)、イオンの浸入が押さえられています。

* 電力共同研究による試験結果

剥離対策もしています

母材と補修材では、乾燥収縮率や温度による膨張係数の違い等により、相互の境界面で大きな繰返し応力が発生する場合があります。本工法では母材と補修材との間に「弾性」的な性質を持つ「ペガ弾性防錆モルタル」を使用して、この応力を吸収します。

発生する場合があります。本工法では母材と補修材との間に「弾性」的な性質を持つ「ペガ弾性防錆モルタル」を使用して、この応力を吸収します。



曲げ試験の様子

* 試料は5mm厚

たわみ試験結果 0.0097cm/cm

* 非弾性タイプの値 0.0012 cm/cmのおよそ8倍の耐たわみ性能を有します。